

第 4 次 柏市生涯学習推進計画 改訂版
【案】

柏市

はじめに

The image displays a 25x25 grid of asterisks. A gray rectangular block is positioned in the top-right corner, covering the first 8 rows and the last 8 columns of the grid. This leaves a white rectangular area on the left, which is 8 rows high and 17 columns wide. This white area contains the visible portion of the asterisk grid, which is 8 rows high and 17 columns wide.

令和*年*月

***長 ** **

目次

I N D E X

p 1 第1章 当計画の概要

- p * 1 計画の背景
- p * 2 計画の位置付け
- p * 3 計画の期間

p * 第2章 生涯学習の現状と課題

- p * 1 生涯学習の定義
- p * 2 国・県の動き
- p * 3 柏市総合計画の方針
- p * 4 生涯学習を取り巻く柏市の現状
- p * 5 第4次計画の総括

p * 第3章 計画の目指すもの

- p * 1 柏市が目指す生涯学習像
- p * 2 目指す方向性
- p * 3 取り組み方針
- p * 4 計画の推進・評価体制

p * 第4章 計画を推進するための取組

- p * 1 取組方針

第1章

当計画の概要

1
計画の背景

わが国においては、本格的な少子高齢化と人口減少社会の到来、さらにはグローバル化や高度情報化の進展といった社会情勢の著しい変化により、生涯学習に対する市民意識や学習ニーズが多様化しています。また、2019年（令和元年）末に発生し世界的に流行した新型コロナウイルス感染症が、人々の生活スタイルや価値観、経済や文化など、社会全体に大きな影響を及ぼしています。

こうした状況において、一人ひとりが生きがいに満ちた豊かな人生を送るため、誰もが生涯を通じて学び続けることができる環境づくりが求められており、生涯学習の推進の必要性、重要性は一層高まっています。

一方、地域のつながりの希薄化や若年・現役世代の地域参加の減少といった地域の様々な課題が存在し、社会情勢を背景とした地域課題の複雑化が進む中、一人ひとりの学習成果を地域の課題解決に生かすことができる知の循環型社会の構築が求められています。

第4次柏市生涯学習推進計画では、「笑顔と元気が輪となり広がるまち柏」を将来像に掲げ、一人一人が生涯学び、生き生きと暮らせるまちを目指した施策を進めてきました。

これまでの取組による成果や課題の抽出、市民アンケートの結果や審議会からのご意見、国や県における生涯学習政策の動向や社会情勢などを総合的に踏まえ、生涯学習施策を着実に推進していくため、新たな時代に即し、計画を改訂しました。

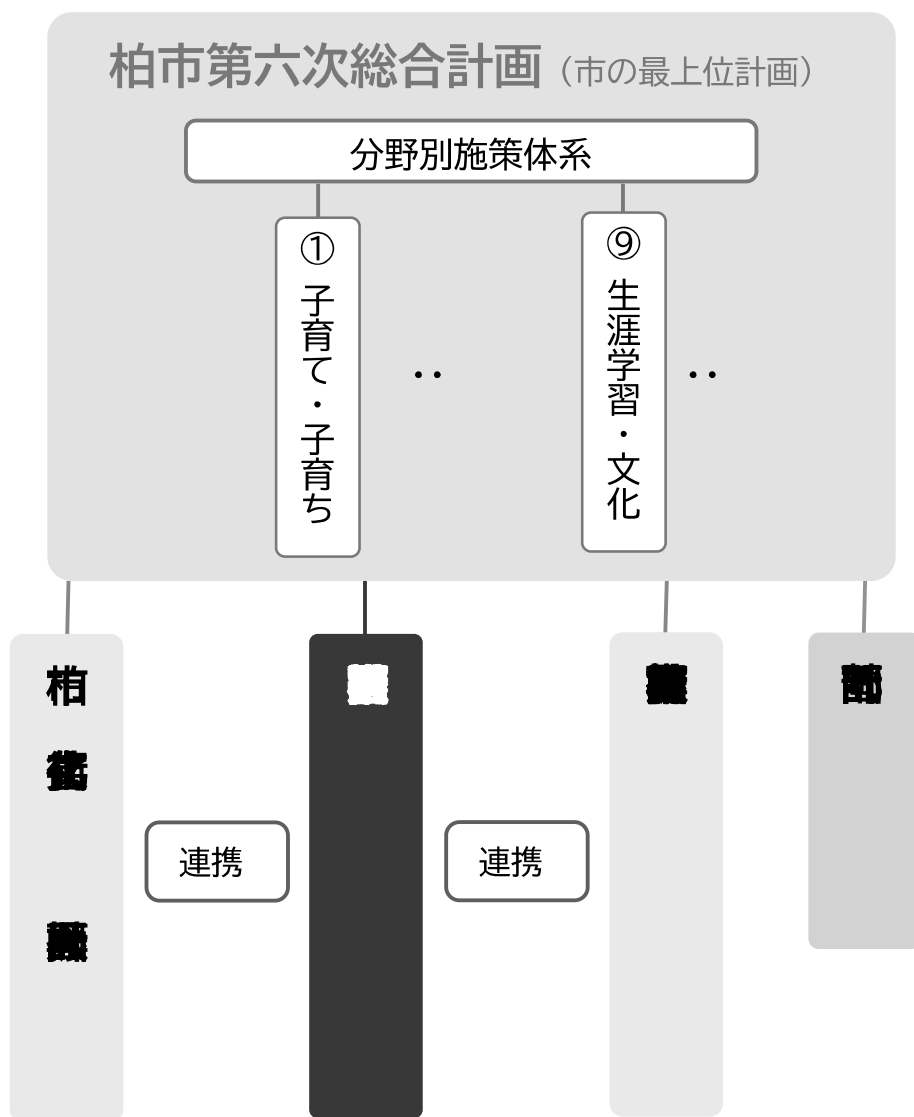
◆ 計画改訂の視点

第4次計画の基本的な理念を踏襲するため、第4次計画の改訂版とし、国の新たな生涯学習施策の方針や、市の関連計画の方向性を加味したものとします。

市の最上位計画である、「柏市総合計画」の部門計画として策定します。

なお、柏市第六次総合計画においては、施策「生涯学習・文化」に位置付けられています。

市の教育の目指すべき方向性、目標を示した「柏市教育振興計画」と、市の芸術文化行政の方向性、目標を示した「柏市芸術文化振興計画」は、関連する施策が多く、これらの計画と整合を図ることとします。



3 計画の期間

第4次計画の終期が令和7年度であることから、改訂版は令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

ただし、社会情勢の変化や施策の進捗状況などを踏まえ、必要に応じて見直しを図ります。

令和	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
西暦	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
柏市総合計画	柏市第五次総合計画 後期基本計画				柏市第六次総合計画 令和16年度まで					
柏市教育振興 計画	第2次 柏市教育振興計画				次期 柏市教育振興計画					
柏市生涯学習 推進計画	第4次 柏市生涯学習推進計画				第4次 柏市生涯学習推進計画（改訂版）					
柏市芸術文化 振興計画	第五次 柏市芸術文化振興計画				次期 柏市芸術文化振興計画					

第2章

生涯学習の現状と課題

1

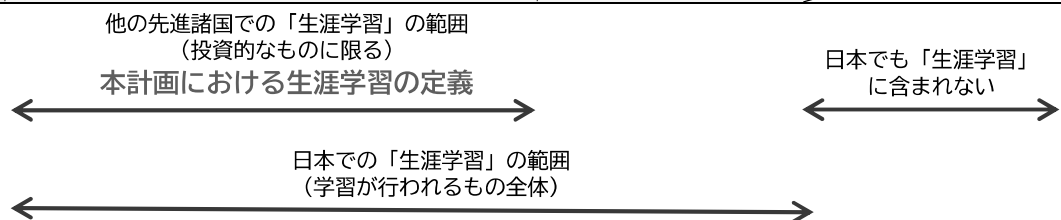
生涯学習の定義

1 生涯学習の理念と定義

「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」（教育基本法第3条「生涯学習の理念」）という教育基本法の理念を踏まえ、学習する意思による教育訓練活動における学習や自己学習活動における学習だけでなく、偶発的学習も含めた、学習が伴うすべての行為を生涯学習と捉えます。

この計画においては、下図のうち、自発的・自主的な学習を重視し、①教育訓練活動における学習や②自己学習活動における学習を生涯学習と定義しています。

分類	①教育訓練活動における学習	②自己学習活動における学習	③偶発的学習としての学習	④学習を伴わない余暇活動等
学習の性格	人々に学習させることを本来の目的とする活動に参加して学習すること 例) 学習することを目的として、学校教育、社会教育、企業内訓練などにおいて教育訓練を受けた場合	教育機関等の助けをかりずに、自ら学習すること 例) 学習することを目的として、本などを用いてひとりで学習した場合	日常生活の種々の活動の中で、結果としてたまたま何かが学ばれた場合 例) 学習する意思はなく、読書、散歩、通勤、映画鑑賞、旅行、スポーツ、文化活動などの中で、結果として偶然何かを学習した場合	結果として学習を伴わなかった、心の豊かさや生きがいのための活動等 例) スポーツ、文化活動、その他の余暇活動等をして、結果として何も学習しなかった場合
学習か	学習が行われる			学習が行われない
学習意思	学習する意思がある（「学習活動」の範囲）		学習する意思がない（「偶発的学習」）	



著 / 岡本 薫『行政関係者のための 新訂 入門・生涯学習政策』より

2 国・県の動き

1 国の動向

平成30年に国は、「第3期教育振興基本計画」を策定しました。この計画は、子どもたちの多様な可能性を引き出し、未来社会で活躍できる人材を育成するために、教育制度や現場環境を抜本的に見直し、改善するための包括的な政策文書として位置づけられています。また、人生の各段階での学習機会の確保という視点も重要な柱の一つとして位置づけられています。

令和5年には、「第4期教育振興基本計画」を策定し、変化する社会・経済環境に対応できるよう、知識や技能の習得、自己実現、社会参加を促進する学びのシステムの構築を目指すとししました。ICTを活用した学習環境の整備や地域などとの連携を進めながら、全てのライフステージで学びが充実するような取り組みが重要視されています。

中央教育審議会では、今後の教育政策に関する基本的な方針として「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」、「誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進」、「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」を位置付けています。この中で、リカレント教育を通じた人材の育成や生涯学習を通じて地域社会の担い手となることを推進するとしています。

2 千葉県の動向

県は、令和7年3月に第4期千葉県教育振興基本計画を策定し、次世代に向けて、力強く歩んでいく子供たちの育成を目指して、各種施策を展開してきました。

また、人生100年時代・Society5.0の到来、社会的包摂の必要性の高まりなど、生涯学習をめぐる環境が大きく変化する中で、県民一人一人が、いつでも、どこでも学ぶことができ、その成果を生かし、生涯にわたり活躍し続けられる社会の実現を図るため、そして県における生涯学習を推進するために、令和5年に千葉県生涯学習推進方針を策定しました。「社会とつながる生涯学習」を目標とし、これを実現するための視点として生涯にわたる社会での活躍の推進、県・市町村・民間による役割分担と相互の連携・協働、ICT活用を含めた適切な方法による学習の推進を定めています。

3 柏市総合計画 の方針

第六次総合計画においては、「将来の姿」及びそれを実現するための「基本的な目標」に資する施策の中でも、特に重点的に取り組むテーマを「重点テーマ」と位置付けています。

「重点テーマ」は、今後の10年間で、柏の新たなまちづくりに向けた「挑戦」の機会と捉え、基本構想において掲げた「将来の姿」とその実現に向けた「基本的な目標」を達成するため、誰一人取り残さない視点や多様な主体との連携の視点を持ち、分野横断的な取組を推進するものです。

その方向性の一つに、「誰もが学び続けられることで、人が育つまち」を目指す掲げられており、本計画においてもこの方針を踏まえて、市民の自ら考えて行動するための自律的な学びを支え、生涯にわたり学びを得ることができる場をつくり、誰もが学びの喜びを実感できるとともに、地域の課題解決にも資するような、いかなる環境においても活躍できる人材が育つまちの実現を目指します。

柏市第六次総合計画の重点テーマ

重点テーマ1 全世代に向けた学び・健康・社会参加

誰もが学び続けられることで、人が育つまちを目指します。

健康になれるきっかけにあふれたまちを目指します。

みんなの居場所になれるまちを目指します。

重点テーマ2 エリアごとの特徴を生かした地域経済・産業の振興

重点テーマ3 未来に備える防災・減災と気候変動対策

1 あらゆる世代が参加できる様々な学びの充実

令和6年度に実施したアンケート調査結果では、生涯学習を行うことについて、一般市民で91.8%、小中学生で88.5%、高校生で83.9%が必要性を感じており、「生涯学習」という言葉から受けるイメージ（P9）について、「生活を楽しみ、心を豊かにすること」が最も高く、次いで「生きがいを充実させること」、「趣味や教養を高めること」となっています。生涯学習を行っている理由（P10）について、「人生を豊かにするため」「健康の維持・増進のため」「教養を深めるため」が多くなっており、仕事においての必要性や日常生活に生かすためというよりは、人生を豊かにするために生涯学習を行っている人が多いと思われます。

また、生涯学習に関して、どのような情報を知りたいと思うか（P10）という設問では、「開設されている講座・教室の情報」が55.3%と最も高くなっています。

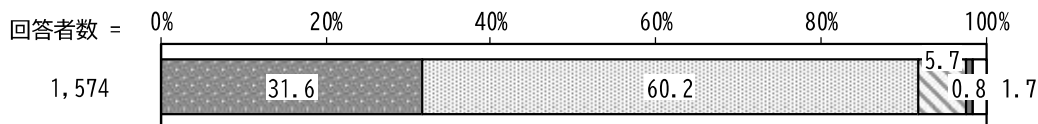
豊かな人生を送るためには、学校教育にとどまらず、幅広い年代層において学習課題を選択し、自己形成、自己実現に取り組むことが重要であり、そのための多様な学習機会の提供や学習への支援が必要となります。

価値観やライフスタイルの多様化、社会情勢の変化などにより、市民の学習ニーズは生活・趣味・教養的な内容から地域に必要とされている現代的課題に対応した学習まで、様々な分野にわたっており、市民のニーズに応じた情報を、必要な時に、効果的に提供できる方法を検討することが求められます。

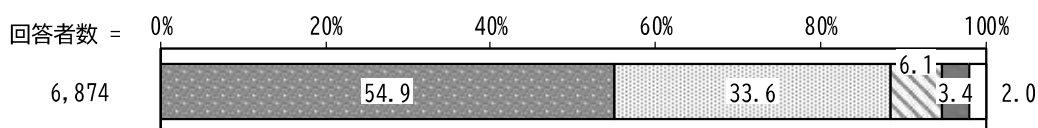
生涯学習を行うことの必要性

■ 強く感じる ■ どちらかといえば感じる ■ どちらかといえば感じない
 ■ 全く感じない □ 無回答

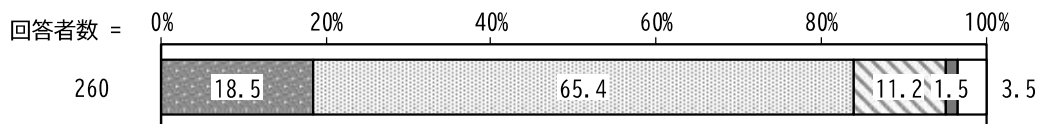
<市民>



<小中学生>



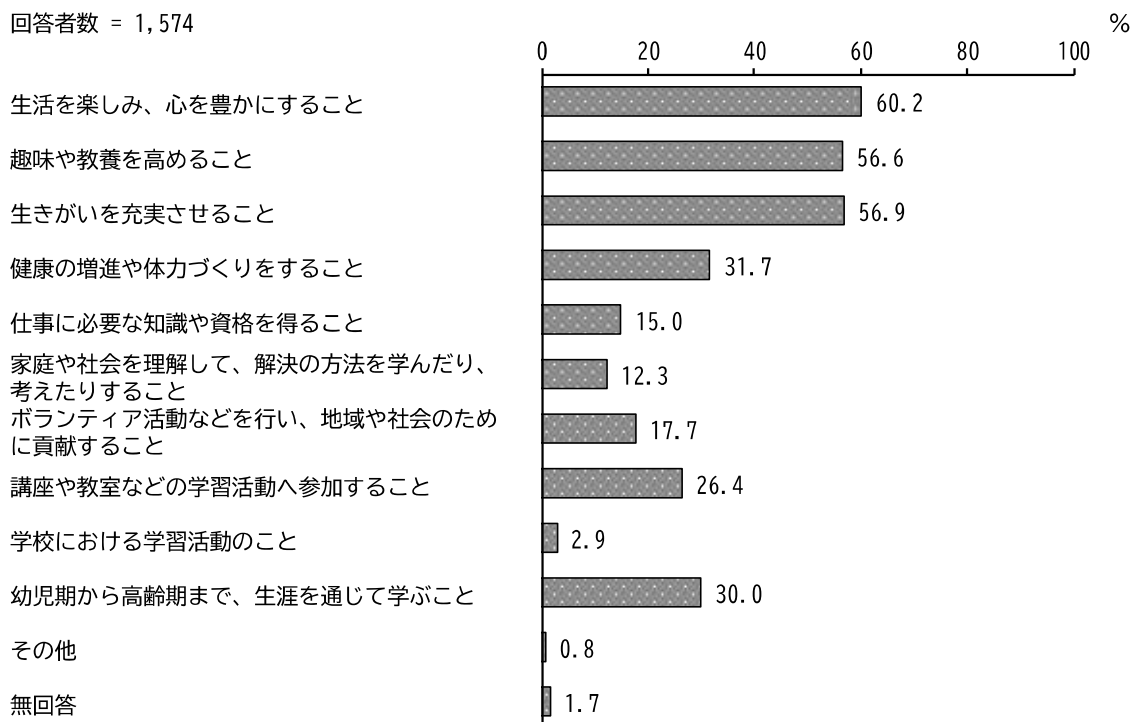
<高校生>



「生涯学習」ということばからのイメージ

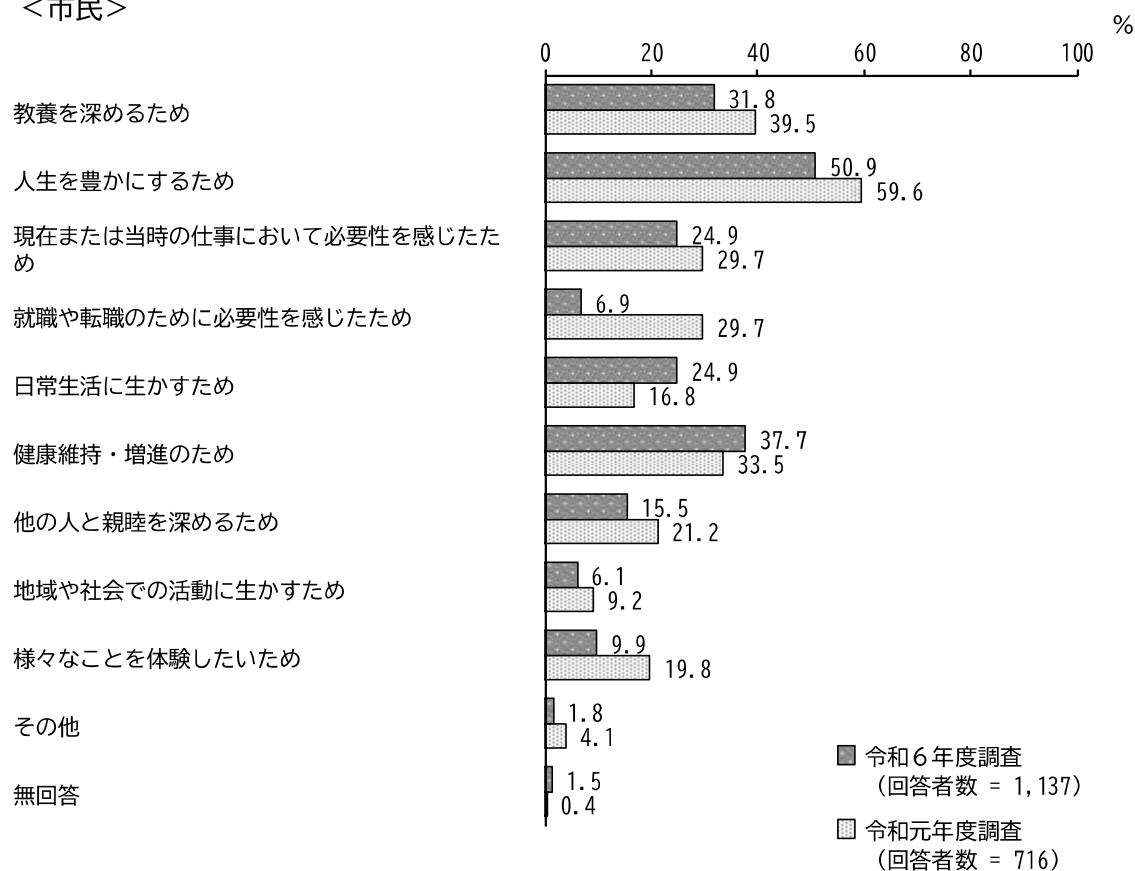
<市民>

回答者数 = 1,574



この1年間に生涯学習をした理由

<市民>

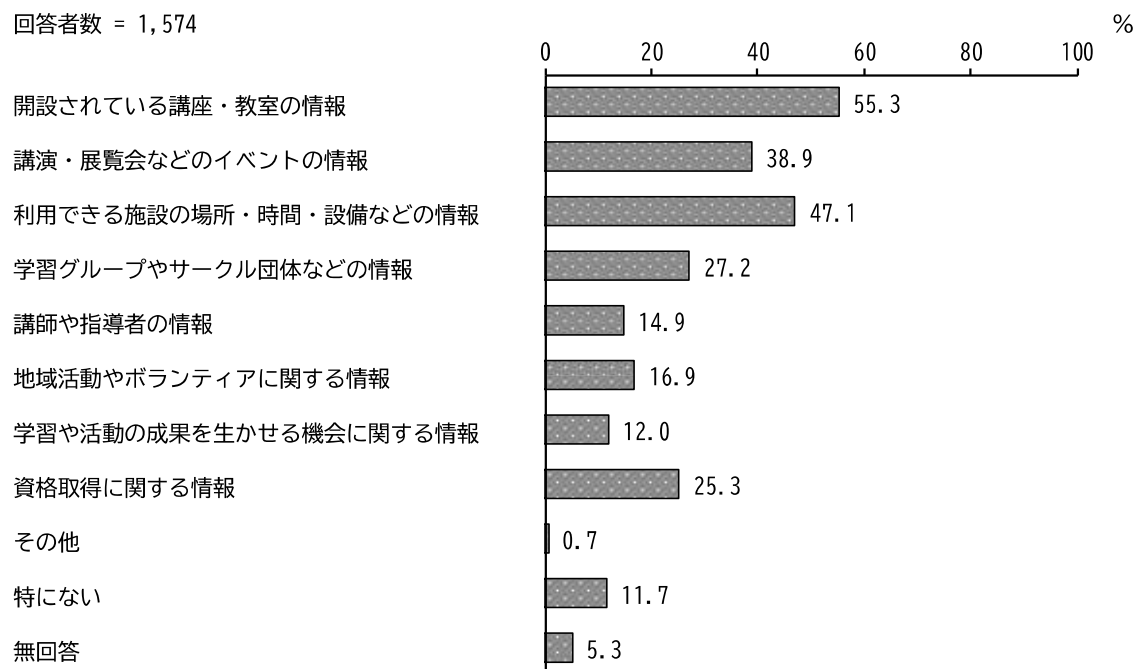


※令和元年度調査では「現在または当時の仕事において必要性を感じたため」、「就職や転職のために必要性を感じたため」は「仕事で必要なため」となっていました。

生涯学習に関して、どのような情報を知りたいか

<市民>

回答者数 = 1,574



2 障害の有無，言語や時間的制約等に関わらず，共に学ぶ環境

アンケート調査結果では、柏市の生涯学習環境について、障害があっても、学習活動に参加しやすいかという設問では、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」をあわせた“そう思わない”が58.1%となっています。

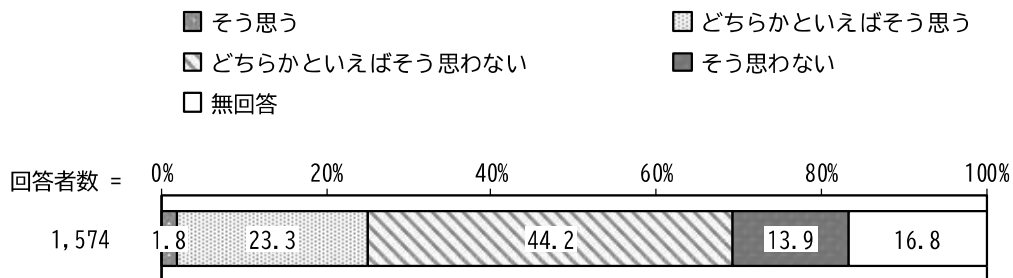
また、今後、人々が学びたいときに学べるようにするために、柏市が生涯学習の推進のために力を入れるべきこと（P12）という設問では、「施設のバリアフリー化などの施設整備」と回答した人の割合が6.7%となっています。また、「インターネットでアクセスできる情報を充実させる」の割合が最も高いほか、「オンライン講座の充実」を希望するニーズも見られます。

障害や言語などの様々な制約に左右されることなく、いつでも、誰でも学べる機会や場の提供の充実を図っていくため、例えばオンラインやアーカイブでの学習ニーズに対応していくことなどが求められます。

また、子ども、高齢者、障害のあるかた、外国人といった様々な人々は、学ぶにあたり特別なプログラムやサポートを要する場合があることから、全ての市民がそれぞれの事情に合った学びを主体的に行えるよう、環境づくりを進めていく必要があります。

柏市の生涯学習環境は、障害があっても、学習活動に参加しやすい

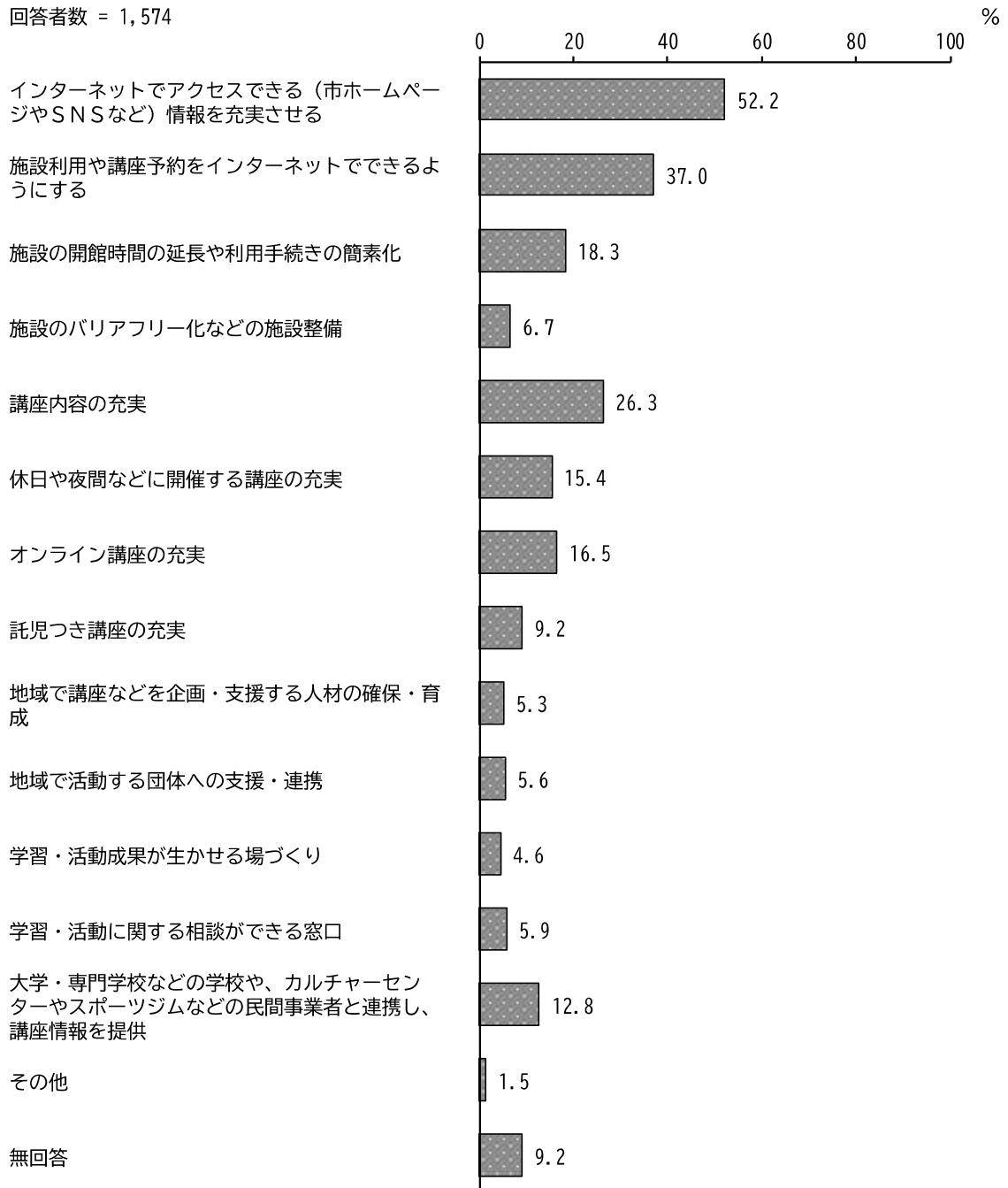
<市民>



柏市が生涯学習の推進のために力を入れるべきこと

<市民>

回答者数 = 1,574



3 団体同士，学ぶ人同士の交流，大学や民間事業者との連携

アンケート調査結果では，生涯学習をした理由（P10）について，「他の人と親睦を深めるため」が15.5%となっています。令和元年度調査と比較すると減少しており，その背景には，価値観の多様化やコロナ禍による対面機会の減少，さらにオンライン学習環境の充実により一人でも学習を進めやすくなったことなどが影響していると考えられます。

また，柏市の生涯学習環境について，学校，家庭，地域社会の連携がとれているかについて，「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」をあわせた“そう思わない”が52.2%となっています。加えて，今後，人々が学びたいときに学べるようにするために，柏市が生涯学習の推進のために力を入れるべきこと（P12）について，「大学・専門学校などの学校や，カルチャーセンターやスポーツジムなどの民間事業者と連携し，講座情報を提供」が12.8%，「地域で活動する団体への支援・連携」が5.6%となっています。

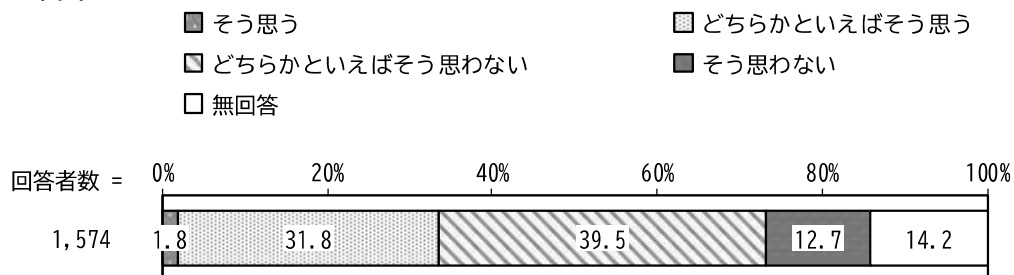
ウェルビーイングな社会を実現していくためには，地域についてみんなで考え，地域の課題を学び，一人ひとりがまずできることから参加し，力を合わせて地域をより良くしていく活動に取り組んでいく必要があります。

また，教育・福祉・環境など市民の身近な生活課題について地域で学び，地域で考える生涯学習の推進に向けて，地域の学びあう場づくりが重要となります。

さらに，生涯学習をより推進していくために，企業などの事業者と連携した生涯学習活動を進めるとともに，生涯学習活動を行っている様々な団体に対しては，市からの情報提供，活動場所や団体情報を発信することのできる機会を提供することが必要です。

柏市の生涯学習環境は，学校，家庭，地域社会の連携がとれている

<市民>



4 より深い学び・学び直しへの発展

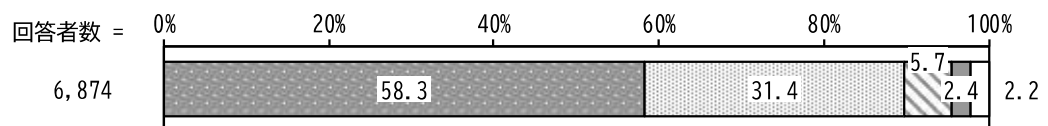
アンケート調査結果では、大人になっても学び続けることが必要だと感じるかという設問では、「強く感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた“感じる”が小中学生で89.7%，高校生で84.3%となっています。今後、教育機関など（大学・専門学校など）で学習したいと思いますかという設問では、「今後、学習してみたい」が48.2%と最も高く、年代別にみると、「すでに学習したことがある、または現在学習している」と回答した割合は20歳代、30歳代で高く、「今後学習してみたい」は40歳代で高くなっています。

生涯学習を広めるためには、市民が学び、学んだ成果を活かすために必要な情報を必要な時に得られる環境づくりを進めるとともに、市民一人ひとりが、学びたいことを積極的に学べるように、生涯学習における内容の充実を図っていくことが重要です。そのために、生涯学習活動の環境整備や講座などの充実を図るとともに、幅広い市民が生涯学習に取り組む意識づけとなるような生涯学習に関わる普及啓発が必要です。

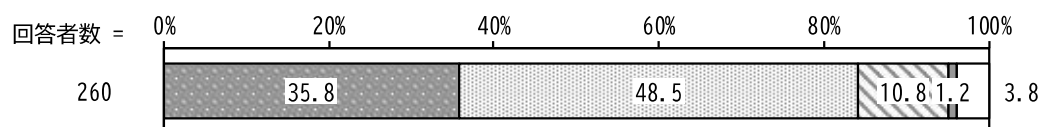
大人になっても学び続けることが必要だと感じるか

☒ 強く感じる ☒ どちらかといえば感じる ☒ どちらかといえば感じない
☒ 全く感じない ☐ 無回答

<小中学生>



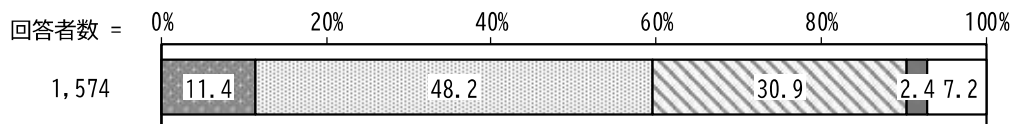
<高校生>



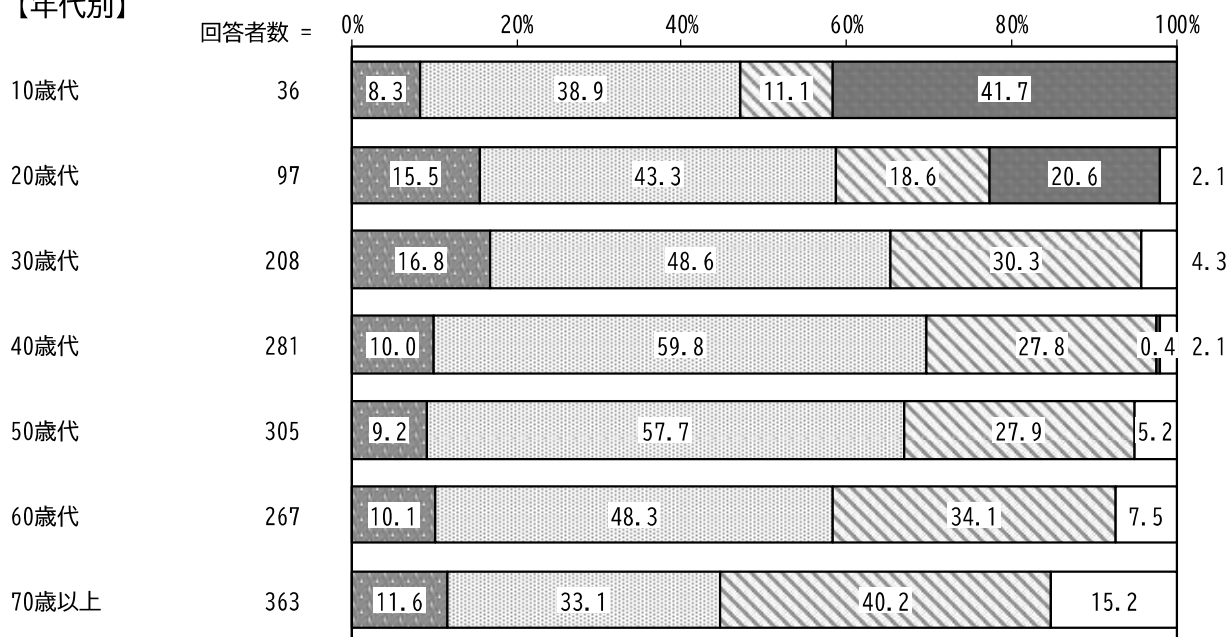
今後、教育機関などで学習したいと思うか

<市民>

- すでに学習したことがある、または現在学習している
- 今後、学習してみたい
- 学習したいと思わない
- まだ在学中であり、社会人となった経験がない
- 無回答



【年代別】



5 生涯学習実施機関との連携

学習ニーズに対応した多様な学習活動を総合的・体系的に推進するためには、行政だけではなく、地域、NPO、企業、教育機関とのネットワークづくりが重要です。

しかし、柏市の生涯学習環境について、学校、家庭、地域社会の連携がとれているかについて、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」をあわせた“そう思わない”が52.2%となっており（P13）、今後も、生涯学習実施機関との連携の強化を図るとともに、様々な主体とも連携を図り、ニーズに応える多様な学びの機会を提供していくことが必要です。

また、生涯学習を推進していくうえで、行政と民間が主体となって相互に連携し協力しあいながら学習機会の提供や活動の場づくりを進めることも重要です。

6 活動の場の整備

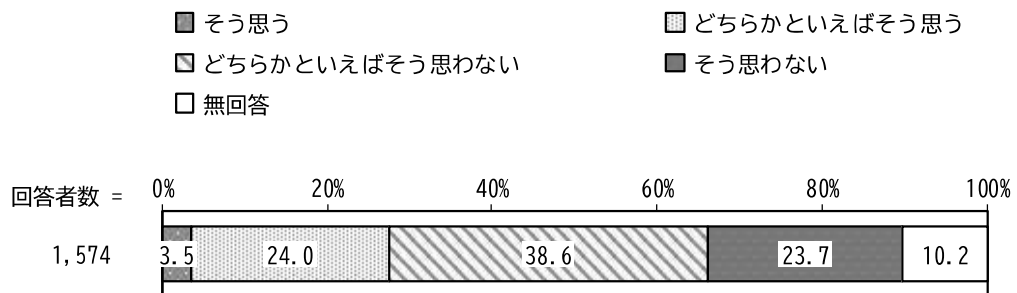
アンケート調査結果では、地域活動やボランティアに参加するきっかけや機会があるかという設問では、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」をあわせた“そう思わない”が62.3%となっており、生涯学習に関して知りたい情報（P10）という設問では、「地域活動やボランティアに関する情報」が16.9%となっています。

また、今後、人々が学びたいときに学べるようにするために、柏市が生涯学習の推進のために力を入れるべきこと（P12）について、「地域で講座などを企画・支援する人材の確保・育成」が5.3%となっています。

各分野の担当課や関係団体と連携し、学習活動を行った人の知識・経験を地域で生かす場や機会づくりを進めることが重要です。例えば、市民が学習成果を発表できる場や機会の充実、各種イベントなどにおけるボランティアとして参加できる企画の取りまとめなどが求められます。

地域活動やボランティアに参加するきっかけや機会がある

<市民>



7 学びのプラットフォームの整備

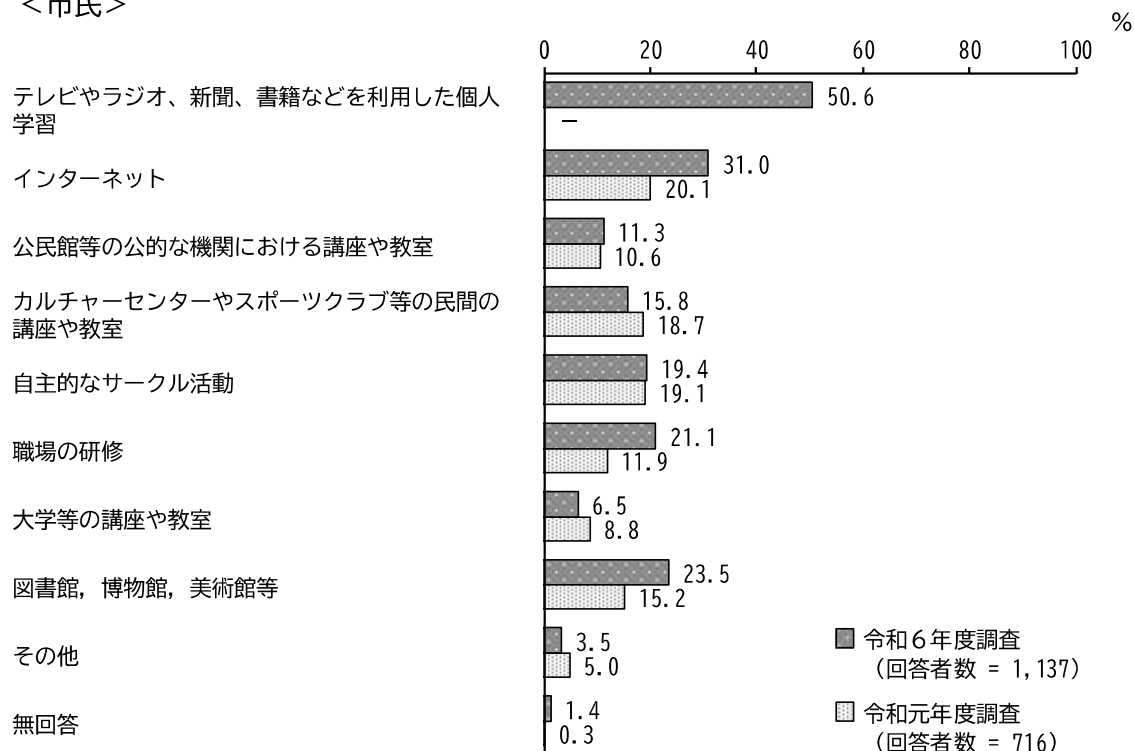
アンケート調査結果では、生涯学習をした形態について、「テレビやラジオ、新聞、書籍などを利用した個人学習」が50.6%と最も高く、次いで「インターネット」が31.0%、「図書館、博物館、美術館等」が23.5%となっており、令和元年度調査と比較すると、「インターネット」「職場の研修」「図書館、博物館、美術館等」の割合が増加しており、個人学習の割合が増加しています。

また、今後、人々が学びたいときに学べるようにするために、柏市が生涯学習の推進のために力を入れるべきこと（P12）について、「インターネットでアクセスできる（市ホームページやSNSなど）情報を充実させる」が52.2%と最も高く、次いで「施設利用や講座予約をインターネットでできるようにする」が37.0%となっており、年代別にみると、「インターネットでアクセスできる（市ホームページやSNSなど）情報を充実させる」では、若い世代ほど割合が高くなる傾向にあります。

近年はオンライン講座などの新しい学習方法が増えており、そうした学習に誰もが参加できるよう、生涯学習施設におけるインターネットの利用環境の充実などの取り組みが必要です。また、情報誌、広報誌、チラシ、SNSなど、多様な媒体を活用し、多くの市民へ情報提供を行うことが重要です。

この1年間にどのような形態で生涯学習をしたか

<市民>



5 第4次計画の 総括

具体的事業の評価のまとめなどを踏まえて、第4次柏市生涯学習推進計画の取組方針ごとに総括を行いました。

取組方針

1 「はじめるきっかけ」を支援

【計画の成果】

- 学校支援ボランティアや夏ボラのススメなど、ボランティア活動を通じて、地域や福祉分野の知識や理解を深めるきっかけとなっています。
- 障害の有無にとらわれず、誰でも参加できる場を提供するなど、障害の理解促進と手話通訳者の派遣などに取り組んでいます。
- かしわフレイル予防ポイントでは、ポイントを貯めることをきっかけとして健康づくりやボランティア活動への参加が促進されています。

【アンケート調査結果】

- 生涯学習を行っている理由として、令和元年度調査に比べ「健康の維持・増進」が高くなっています。
- 自由意見として、新しい趣味や活動への敷居を低くし、特に初心者や未経験の人が入っていきやすい仕組みづくりに関する意見がありました。
 - ・興味がありません人にもきっかけを作る活動が重要。
 - ・地域でお祭りなど歴史を感じられるイベントがあると良い。
 - ・年を重ねても学びたい気持ちがある。
 - ・小さい頃から芸術、文化鑑賞をすると感情豊かな人になると思う。

【課題等】

- 楽しい、面白そうだから行ってみよう、気づいたら学びになっていた、というきっかけづくりが求めているとあり、学びに参加するハードルを下げる工夫が必要です。
- 高齢者や障害がある人の学習に対する必要なサポートについては、ハード面、ソフト面双方で十分に対応できていない面も見られます。
- 特別支援学校では、地域の情報が入手しにくい状況にあり、障害のあるかたが、特別支援学校の卒業後も学び続けていくためには、学校に在籍している間に情報が届くことが必要です。
- 社会のICT化が進んでいますが、子どもや、高齢者に対しては紙媒体の方が情報にアクセスしやすい面もあり、はじめるきっかけを生み出すため、引き続き紙での情報発信も必要です。

○市民には切実な学びのニーズがありますが、多様な細かいニーズを把握して、本当に学びたい人に届くよう取り組みを進めていくことが必要です。

【今後求められる施策】

- 趣味・教養等の学びの充実
- 障害のあるかたの学び支援につながる取組の拡大
- デジタルデバイド解消につながる学習機会の充実
- オンライン環境の整備・講座の充実

取組方針

2 「もっと知りたい、つながりたい」を支援

【これまでの取組】

- 市民活動講座や図書館分館の活用により、団体の運営基盤強化や人と人との交流が進み、新たな活動の創出につながっています。
- 地域学校協働活動を通じて、地域住民が子どもの学びを支え、学校を核とした地域づくりが進んでいます。
- 地域アーカイブ事業では、貴重な資料の収集・保存を進め、世代を超えて共有することで、地域への愛着や新たな学びの契機を生み出しています。
- 子育て分野では、ママパパサロンや地域子育て支援拠点事業により、妊娠期からの学習機会や保護者同士の交流を支援し、孤立予防や安心した子育て環境の整備につながっています。
- 障害者活動センターや福祉喫茶コーナーの運営を通じて、障害のあるかたの社会参加や地域における障害理解の促進を図っています。

【アンケート調査結果】

- リカレント教育や社会人の学び直しなど、今後、教育機関などで学習してみたい人（学習している人を含む。）は59.6%となっています。
- 自由意見として、市民同士のつながりや仲間づくり、交流、図書館や文化施設のアクセス改善に関する意見がありました。
 - ・同じ趣味の人と接する学びの場があると良い。
 - ・地域の子どもたちと高齢者をつなぐ活動の場があると良い。
 - ・自分の趣味に合う企画を知りたい。
 - ・生涯学習施設が遠い、または不便な場所にある。公共交通機関を利用したアクセス改善が必要。

【課題等】

- 地域の人と人がつながり、学びを深めていくためには、学びの枠にとらわれず、人に出会って学び合って成長していくことも学びだということを、広く知ってもらうことが必要です。
- 仲間づくりにより、お互いに教えあう環境となることから、同じ学びをする人とつながる機会を設けるため、仲間づくりの支援や生涯学習実施機関同士の連携の充実などを通じて、つながりのネットワークを広げていくことが重要です。

【今後求められる施策】

- キャリア教育等の職業につながる講座の提供、専門書籍の活用
- 課題に応じた幅広い分野との連携・協働体制のさらなる充実

取組方針

3 「ひろく伝えたい」を支援

【これまでの取組】

- 地域活動支援補助金や地域づくり事業を通じて、団体や住民の主体的な参画を促進しています。課題解決の過程や成果を広く発信することで、未参加の住民や他地域への波及効果も期待されます。
- 学校と地域をつなぐ地域学校協働活動推進員を養成し、学校支援の担い手を育成することで、地域住民の参画機会を広げ、継続的な協働体制となっています。
- 地域いきいきセンターでは、子育てや高齢者・障害者支援など身近な福祉の相談窓口を設置し、市民が安心して相談できる体制を整えています。

【アンケート調査結果】

- 生涯学習ということばからのイメージとして、「家庭や社会を理解して、解決方法を学んだり、考えたりすること」が12.3%，ボランティア活動などを行い、地域や社会に貢献すること」が17.7%となっています。
- 自由意見として、学びや経験を活かす場を求める意見がありました。
 - ・参加者が「学び」から「経験」へスムーズに移行できる環境やサポートが必要。
 - ・長年の経験を生かして何かお手伝いできたらと思う。
 - ・地域活動で次世代をつなぐ活動が重要。
 - ・学んだ内容をアウトプットできる場を提供してほしい。

【課題等】

- これまでの取組では地域の担い手となり得る人材や、地域貢献をしたいがまだ動き始めていない人と地域をつなぐことで地域課題解決に向けた講座への参加を促進してきましたが、今後は、市民が学びで得たことを広げていくためには団体・民間などの様々な主体との連携が必要です。
- 担い手の確保に向けて、リーダーシップを持つ人を発掘し、巻き込んでいく人材育成の取り組みが必要です。

【今後求められる施策】

- 地域における生涯学習を支える人材の活用
- 課題に応じた幅広い分野との連携・協働体制のさらなる充実
- 地域課題に対応した研修の充実

取組方針

4 情報提供による学びの支援

【これまでの取組】

- 子育てや学びに関する情報を効果的に発信することで、市民の不安軽減と学習機会の拡充につながっています。子育て支援情報提供事業では、ウェブサイトやSNSを通じて制度やイベント情報を発信し、保護者の孤立防止や子どもの健全な成長を支えています。
- 生涯学習情報提供システムを整備し、官民を問わず講座やイベント情報を掲載することで、市民の学習参加を促進し、コミュニティ形成の一助となっています。
- 公民館や自宅など多様な環境で利用できる学習コンテンツを提供し、ライフスタイルに合わせた学習を支援しています。

【アンケート調査結果】

- 生涯学習に関して知りたい情報は、「開設されている講座・教室の情報」「利用できる施設の場所・時間・設備などの情報」「講演・展覧会などのイベントの情報」が高くなっています。
- 自由意見として、参加しやすくするための情報提供に関する意見がありました。
 - ・生涯学習や芸術文化について、インターネットに加えて高齢者向けにも分かりやすく情報提供をしてほしい。
 - ・身近な施設で開催される講座やイベント情報をもっと知りたい。
 - ・SNSを積極活用し、情報発信力を高めてほしい。

【課題等】

- 情報の充実化は、幅広い世代に対する生涯学習への参加を促す手段として有効であり、わかりやすい情報提供に努めてきましたが、行政が提供する情報だけでは、市民の幅広い学びのニーズを満たすことは難しい状況です。
- ICTツールを活用した情報提供は重要ですが、一方で、様々な情報が市の情報がまぎれてしまうことも考えられ、特定のニーズに対する内容は行政以外の民間や大学などと連携し、市民に対して民間と行政の区別なく様々な情報が発信されるようにしていく必要があります。
- 学びの広報においても、オンラインは遠方の人とつながりやすい面があり、従来の媒体とのハイブリッドも含めて、選択肢を増やしていく必要があります。

【今後求められる施策】

- デジタルデバイド解消につながる学習機会の充実（再掲）
- 県との連携による学習情報の活用
- 学習相談体制の整備

今後、教育機関などで学習してみたいと考える市民が約6割と学びに対する市民のニーズの高さがうかがえます。

これまでも市民活動講座などを通じて、様々な学びの機会を提供してきましたが、市民が学びで得たことを広げていくためには団体・民間などの様々な主体との連携が必要であり、今後は生涯学習のネットワークの充実を更に広げていく必要があります。

また、幅広い世代に対する生涯学習への参加を促す手段として情報提供の充実が重要ですが、多様化する市民の学びのニーズに応えていくためには、行政だけでなく民間の情報発信も必要となり、こうした面からも多様な主体との学びの連携が求められます。

計画の目指すもの

1 柏市が目指す 生涯学習像

グローバル化、少子高齢化、科学技術の発展、環境問題など、現代社会は大きな変化を迎えています。人生100年時代において、人々が精神的な豊かさや幸福、生きがいといったウェルビーイングを目指すためには、生涯学習の重要性は一層高まっています。

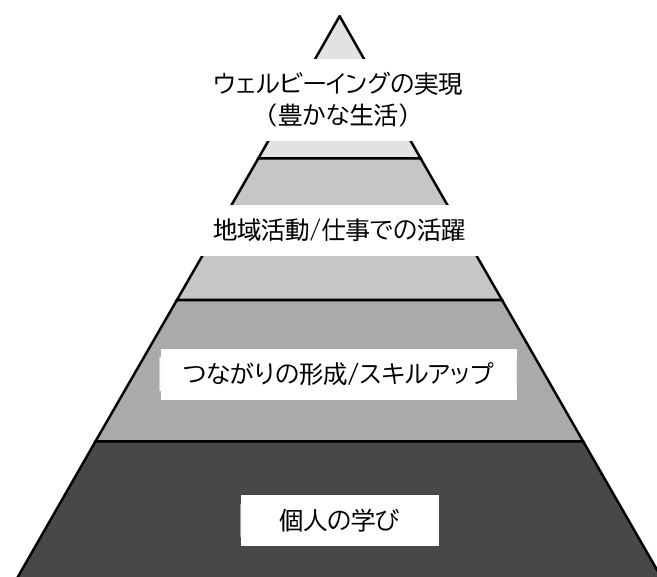
生涯学習は、自発的に生涯にわたり行うもので、地域や社会への貢献意欲を高め、自身の向上だけでなく、地域社会の担い手として活躍できる人を育む土台となります。子ども、若者、社会人、高齢者など、すべての世代が学び続けることは、地域全体の活性化や愛着の向上につながります。

さらに、生涯学習を通じて人と人、人と地域をつなぐ「知の交流」が進むと、新たな価値やつながりを生み出します。小さな学びや地域貢献の積み重ねが、笑顔と元気が輪となって広がる地域社会を形成する原動力となります。

市民が生涯学習を自分事として捉え、一人ひとりのウェルビーイングの向上と、豊かな人生が実現することを目指し、柏市が目指す生涯学習像を以下のとおり表現しました。

知の交流を通じた人と地域の活性化 ～笑顔と元気が輪となりウェルビーイングが実現するまち柏～

生涯学習のモデル図



2

目指す方向性

(1) 子どもたちが健やかに成長するように

すべての子どもが心身ともに健やかに成長し、可能性を最大限に発揮できるようにするためには、子どもたちが主体的に学び、地域や社会に貢献できる力を養うため、「家庭」「学校」「地域」が相互に連携し、地域全体で支える体制を構築することが求められます。

家庭や学校だけでなく、地域全体で子どもたちを見守ることで、豊かな体験や多様な価値観との触れ合いを通じ、自己肯定感や自己効力感を醸成できます。それにより社会における自己実現を目指し、未来の地域を担う存在として育成されることが期待されます。

(2) コミュニティの中に人と人のつながりが増えるように

少子高齢化や核家族化の進行により、地域のつながりが希薄となり、地域力の低下が懸念されています。こうした中で、地域の担い手となり得る人材や、何かしたいと思いながらもきっかけがない人と地域をつなぐことが重要です。その手段として、学びの場が効果的であり、学びを楽しさから始めることで、多くの人々が興味を持ち、主体的に学びや地域活動に参加するきっかけとなります。楽しい学びの場は、幅広い世代や価値観を超えて人と人とをつなげ、共に学び合う環境をつくります。

また、学びの楽しさを通じて地域への理解が深まることで、身近な課題へ関心を持ち、自ら解決に向けて考え、行動し、地域社会全体を活性化することが期待されます。

(3) すべての人が学べる環境に包まれるように

全ての市民がウェルビーイングを実現するためには、すべての世代が学び続ける機会を得られる環境づくりが重要であり、世代、障害の有無、時間・経済的制約などに関わらず、市民一人ひとりがいつでも、どこでも、だれでも、ICTツールなどの多様な手段を活用して、それぞれのニーズに応じて学ぶことのできる環境づくりを支援します。

また、学んだ成果が地域で生かせる活動につながることで、生きがい・やりがいを感じられ、自分自身が地域の一員であり主役であることの喜びや充実感の中で生活できることを目指します。

3

取り組み方針

(1)「はじめるきっかけ」を支援

誰もが気軽に学びを始められる「はじめるきっかけ」をつくることは、生涯学習社会の実現において重要な要素です。「楽しさ」「手軽さ」「自己研鑽」といった学びの入口を整備することで、あらゆる年代や立場の人々が自らの関心やニーズに合わせて学びを楽しめる環境を提供します。

学びの場は、地域社会の活力や個々人のウェルビーイングを高める重要な役割を果たします。こどもから高齢者、働く世代や学び直しを希望する人が主体的に学べるよう、学習ニーズを把握しながら、多様なライフスタイルに対応したあらゆる世代が参加できる様々な学びの充実を図ります。

また、障害の有無、国籍、子育て中の家庭、働く世代等、多様な背景や状況に関わらず、ともに学ぶことができる環境づくりに努めます。

(2)「もっと知りたい、つながりたい」を支援

学びを深める中で生まれる「もっと知りたい」「誰かと一緒に学びたい」「つながりたい」という意欲を実現するため、様々なイベントなどを通じて参加者同士のつながりを創出します。学びによるつながりを活用し、地域交流や連帯感を深め、コミュニティの活性化を促進します。

学びが個人の成長だけでなく、地域や社会とのつながりを築くきっかけとなるよう、団体同士、学ぶ人同士の交流の場を提供します。団体や学ぶ人同士がつながり、互いの知識や経験を共有し、多世代や多分野の交流を促進します。

加えて、大学の持つ知識・専門性や民間事業者の技術・ノウハウを活用し、新しい学びのプログラムや産学連携による学びの場を提供することで、学びの質の向上を図ります。

また、人生100年時代を見据え、個人のキャリア形成や自己実現のために社会人の学び直し（リカレント教育）のニーズが高まっており、大学などの高等教育機関や民間事業者と連携し、学習機会の多様化、情報共有の円滑化をし、より深い学び、学び直しへの発展を図ります。

(3)「ひろく伝えたい，学びを活かしたい」を支援

学びから広がる交流は，更なる学びや地域活動のきっかけとなり，学びの循環を生み出します。学びを通じて身につけた知識や技能，経験を地域づくりに活かすため，学習成果を発表する機会を確保するとともに，学びを地域に共有し，地域の活性化や愛着の向上を促し，住民が地域の一員としての喜びや充実感を感じられる機会を充実させます。

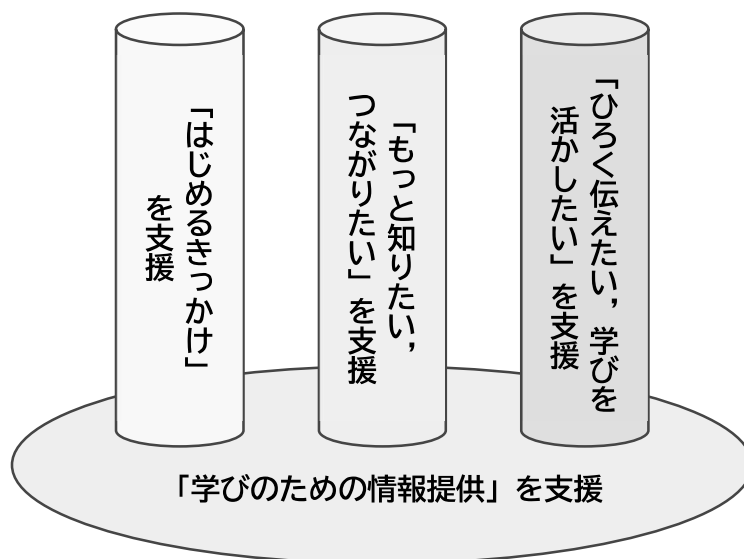
また，社会教育士などのコーディネーター人材を活用し，学びあい・支えあいのネットワークを広げ，学びを通じ，地域で活躍する人材の育成や，ソフト・ハード両面での活動の場の充実を図ります。

(4)「学びのための情報提供」を支援

誰もが簡単に学びに関する情報を入手できるよう，多様な媒体を活用し，情報が届きにくい人にも配慮しながら効果的な情報提供を行うとともに，一元的な生涯学習情報の提供に取り組みます。

活動団体が情報発信できるツールを整理するとともに，ライフスタイルに合わせた学習コンテンツの提供，生涯学習情報の一元化などにより，学びのプラットフォームを整備します。

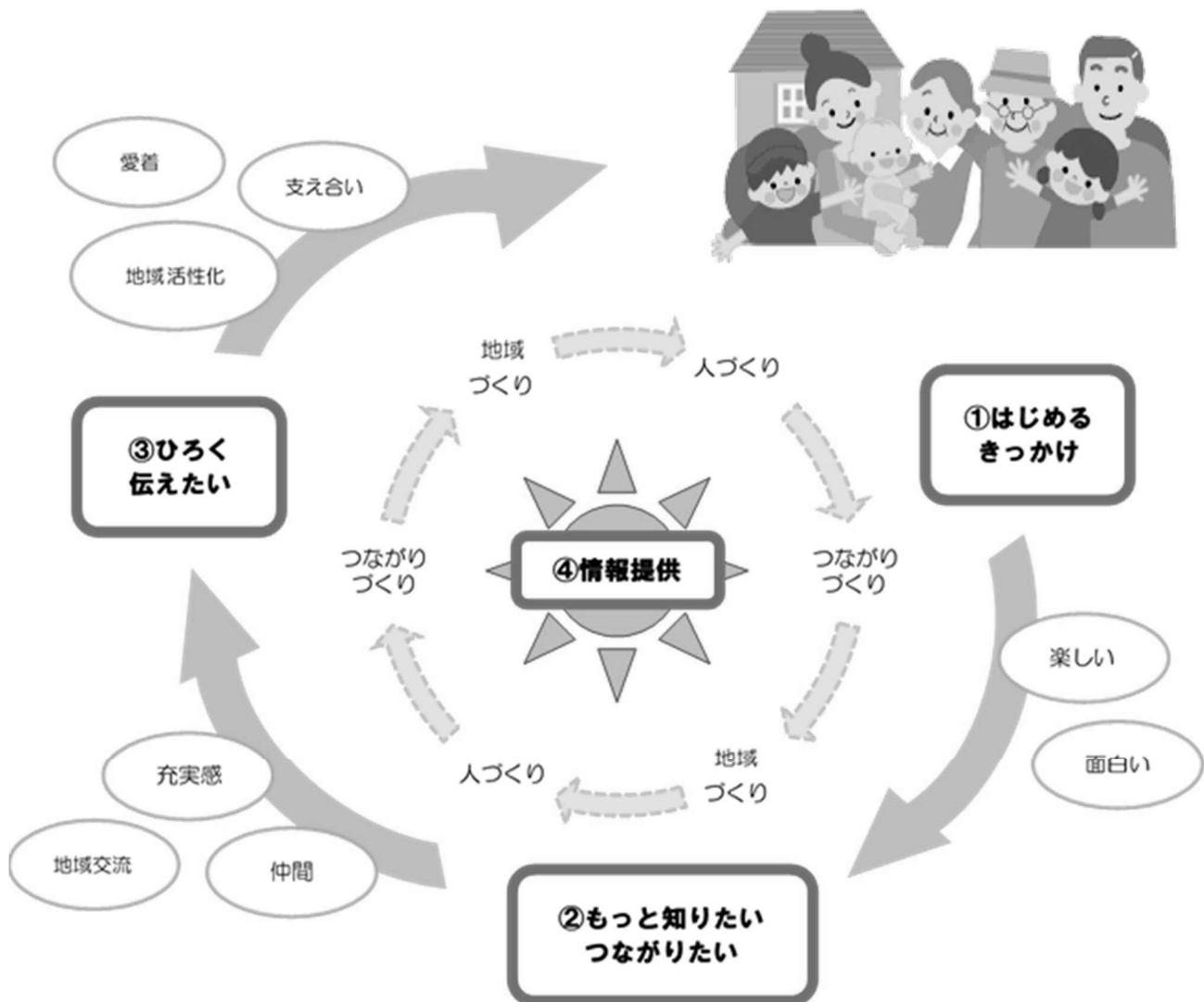
取り組み方針の関係性



◆施策体系

将来像	方向性	取組方針	実現へのアプローチ	実現に向けて必要な視点 (方向性)
顔と気が輪になる 広域 柏市学びを通して 人と地域の 橋	子どもたちが健やかに成長するように	「はじめるきっかけ」を支援	あらゆる世代が参加できる様々な学びの充実	「楽しさ・面白さ」「手軽さ」「自己研鑽」を入口にした学びの仕掛け
			障害の有無, 言語や時間, 経済的制約に関わらず, ともに学ぶ環境の充実	・行政が学びのニーズを把握 ・個々人の細かな学びのニーズに対して, 民間との連携が必要
				・学びの支援者育成を含めた, 学習環境の整備
				・施設情報を含む学びの情報を障害のある人も含めた, 外国人や産育休中の学びなおし等, 多様なニーズに応える
	コミュニティの人とのつながりが増えるように	「もっと知りたい, つながりたい」を支援	団体同士, 学ぶ人同士の交流	イベントなどをきっかけとした参加者, 学びのつながりの創出
			大学や民間事業者との連携	
			より深い学び, 学び直しへの発展	生涯学習実施機関(行政, 団体, 民間を含む)のネットワーク化の推進
			生涯学習実施機関との連携	
	すべての人が学べる環境に包まれるように	「ひろく伝えたい, 学びを活かしたい」を支援	人材の育成, コミュニティの育成, ソフト・ハード両面での活動の場の整備	学びをきっかけとした地域団体・市民活動団体との連携と, 地域活動につなげる仕掛け
				社会教育士などのコーディネーター人材の活用
		「学びのための情報提供」を支援	学びのプラットフォームの整備	・市所管の活動団体が情報発信するツールの整理
				・民間情報を含めた, 生涯学習情報の一元化 ・ICTツールの利用も含めた学びの支援 ・引き続き, 紙媒体での広報が有効な場面もある

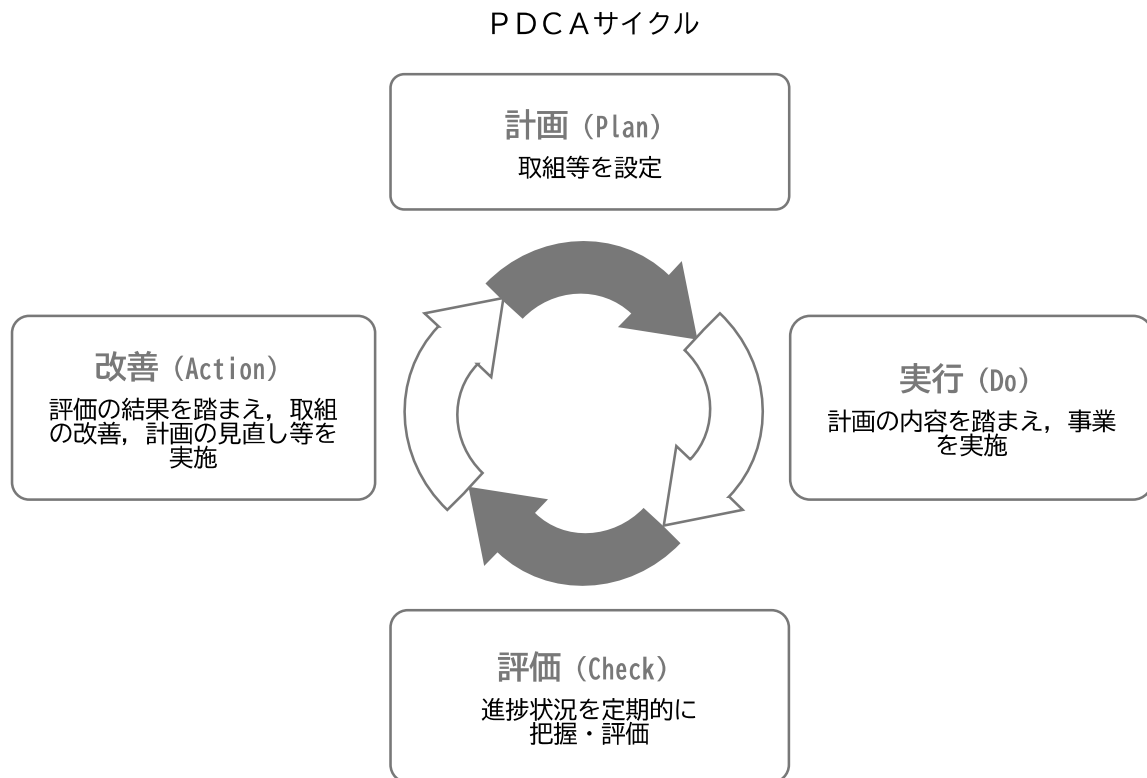
目指す方向性を実現するための段階的支援のイメージ



4 計画の推進・ 評価体制

本計画の進捗状況の管理・評価については、計画を立て（Plan）、実行し（Do）、その進捗状況を定期的に把握・評価（Check）したうえで、その後の取組を改善する（Action）、一連のPDCAサイクルに沿って行うよう努めます。

また、外部の有識者を含む附属機関に意見を聴取することで、計画の進行管理や評価検証・見直しを行います。



計画を推進するための取組

1

取り組み方針

**。

3 「ひろく伝えたい、学びを活かしたい」を支援

学びから広がる交流は、更なる学びや地域活動のきっかけとなり、学びの循環を生み出します。学びを通じて身につけた知識や技能、経験を地域づくりに活かすため、学習成果を発表する機会を確保するとともに、学びを地域に共有し、地域の活性化や愛着の向上を促し、住民が地域の一員としての喜びや充実感を感じられる機会を充実させます。

また、社会教育士などのコーディネーター人材を活用し、学びあい・支えあいのネットワークを広げ、地域づくりを支援します。

<実現へのアプローチ>

① 人材の育成，コミュニティの育成，ソフト・ハード両面での活動の場の整備

ボランティア等の人材を育成するとともに、学びの活動が気軽にできるよう、ソフト・ハード両面での活動の場の充実を図ります。

◆ 成果指標

項目	現状値（R 6）	目標
「学習や活動の成果を活かせる機会がある」と回答した人の割合		増加

◆ 具体的な事業

学びをきっかけとした地域団体・市民活動団体との連携と、地域活動につなげる仕掛け

事業名	内容			担当課
読み聞かせボランティア養成講座	豊かな感性や多様なものの見方を育み、言語を学ぶきっかけとなる読み聞かせを行うボランティアを養成する。			図書館
	<事業指標>	現状値（R 6）	目標	
	参加団体数・参加者数		増加	

社会教育士などのコーディネーター人材の活用

事業名	内容			担当課
教育福祉会館の自律（立）的運営や公民館事業を通じた人材育成	ラコルタ柏事業推進委員会を通じ、人材を育成を行う。			中央公民館
	<事業指標>	現状値（R 6）	目標	
	コーディネーター数		増加	